



## 50周年記念対談

“選ばれる”ために

ともに駆けぬけた50年

—さらなる高みを目指して今見据える未来とは—

マーシュ総研株式会社  
代表取締役

清岡 義教



BMW株式会社  
BMW Mマネージャー

レナート・ニグマン

MARSH SOKEN

マーシュ総研株式会社

マーシュ総研株式会社  
代表取締役  
清岡 義教

BMW株式会社  
BMW Mマネージャー  
レナート・ニグマン



清岡：今年、マーシュ総研は設立50周年を迎えました。そこで今回は、同じく今年50周年を迎えたBMWのグループ会社であるBMW Mのマネージャー レナート・ニグマンさんをお迎えして、スペシャルな対談をお届けしたいと思います。レナートさん、本日は、よろしくお願ひします。

レナート：こちらこそ、よろしくお願ひします。

清岡：50年、ともに長い歴史を積み重ねてきたわけですが、統計によると企業の99.7%が、50年続かないのだそうです。我々はその中の0.3%なのかと思うと、沢山のお客様に支えられまして50周年の節目に対談させていただけることを非常にありがたく感じております。これまで当社もさまざまな山を乗り越えてきたわけですが、まずは、BMW M社のこれまでの50年を教えていただけますでしょうか。

レナート：BMW Mは、BMWがモータースポーツに本格的に参戦するため、研究開発や製造、マネジメントを担う子会社として1972年に誕生した会社です。そして、6年後の78年に、モータースポーツで培った技術を応用した「Mモデル」の販売を開始し、それ以来「M535i」や「M5」「M3」など現在「Mシリーズ」と呼ばれるラインナップを追加し、量産車両でありながら“駆けぬける歓び”を体感いただけるサーキット走行を意識したモデルをつくり続けてきました。こうして振り返ってみると、これ

までももちろんさまざまな転機がありましたが、特に近年の車業界は劇的な変革期を迎えています。



清岡：電気自動車の登場でしょうか。

レナート：そうです。近年一気に電動化が進んでいますが、BMWはガソリンエンジンの開発に力を入れてきた会社なので、このままでは

BMWの伝統が急になくなってしまうかもしれない。それほど、BMWにとって今が大きな転換期となっているんです。他社は2025、6年には、当社も将来的には、完全に電気自動車に切り替わる予定です。

清岡：そんなに早く…。いずれ「Mシリーズ」も完全電動化になるかと思いますが、そうなるとBMW M社とBMW社との差別化も図りにくくなりますよね？

レナート：そうなんです。ただ、前社長であるマークス・フラッシュにも確かなビジョンがあって、もし将来的に全て電気自動車になったとしても、BMW Mは電気自動車をつくる会社の中で最も優れたパフォーマンスを持つ車両をつくる会社になるんだと。BMWは、今全世界でNO.1の販売台数を実現していますが、我々には、電気自動車になってもそれを継続するんだという強い思いがあります。

“常に、NO.1”を思い描いて、開発を進めています。

清岡：なるほど。実際今の走行性を維持しながら、電気自動車に切り替えていくには、どのような課題があるのでしょうか。

レナート：一番は、EV用バッテリーによる重量の増加で

## レナート・ニグマン

BMW株式会社 BMW Mマネージャー

1983年4月22日にドイツのブレーメンで生まれ、大学卒業後2010年に来日。2019年にBMWジャパンに入社。以降営業部でBMW MとBMWラグジュアリークラスのモデルの販売を担当。最も好きなBMWモデルはM2。



すね。重量を減らす、これは走行性をよくするために必要な絶対条件です。スポーツカーを牽引してきた当社が開発する以上、単に一度の充電でより長く走ればOKというものではなく、サスペンションやブレーキも含め全てにおいて、ハイパフォーマンスな車でなければなりません。そのためにも、いかにコンパクトなバッテリーやモーターを開発して重量を抑えるか。当社には、本当に優れたエンジニアたちがいるので、間違いなく世界でNO.1の技術を開発してくれるのではないかと思います。

清岡：世の中の変化にいち早く対応しながら、これまでと変わらずより高いレベルを目指していく。BMWが世界の販売台数NO.1を維持しているのも納得です。ただ、そんなBMWを愛するお客様が多いからこそ、ガソリンエンジンにこだわる方も少なくないのではないかでしょうか。

レナート：そうなんです。今でも大型エンジン V型8気筒に魅力を感じてくださるお客様がものすごく多い。だからこそ、エンジン音だけは妥協できないという方もたくさんいらっしゃいます。ただ、ガソリンエンジンでは体感できない加速力だったり、電気自動車ならではの優れた面もあるためそこをご理解いただけるよう、他社より完全移行を遅らせてでも、お客様に寄り添いながら徐々に進めていこうとしています。

清岡：“駆けぬける歓び”を感じたいお客様が「Mシリーズ」を選ばれているんですね。

レナート：はい。だからこそ、例え完全に電気自動車に移行しても、「Mシリーズ」がBMWのラインナップの中で、最も運転が楽しい車であること、これは変わらず目指していきます。

## 全国の志を同じくする仲間とともに 保険のイメージを変えていきたい

清岡：保険業界もまさにこの50年、さまざまな転機がありました。1972年に父である清岡正教が創業した当時は、まだ保険も自由化されておらず、どこで入っても同じ時代です。その中で、企業のリスク管理のサポートができる会社にしようとの想いで「保険管理事務所」という名前で出発致しました。その後、ピックパンいわゆる金融の自由化が起き、お客様は自分で保険会社も商品も選べる時代になりました。そこで2代目の兄である清岡正彰は、お客様に更に満足いただくためには、私たちがさらに保険を研究しリスクに合わせた保険商品を最善に組み合わせてご提案する必要があると「保険総合研究所」という名前に変更しました。そして、私が跡を継ぎ、さらなるお客様への付加価値を考えたとき、海外進出を目指す中小・中堅企業のみなさまのサポートもできる会社になれればと、2018年保険仲介およびリスクアドバイザリーの世界的リーディングカンパニーであるマーシュグループに加わり、2021年に「マーシュ総研」に改名しました。このように時代の変化に対応しながら会社も成長し、同時に社名も変更して参りましたが、私たちが掲げてきた「安心、信頼、感動のサービス」という、お客様第一の精神は創業当時から何ら変わらず生き続けています。

私たちの主なお客様である中小・中堅企業というのは、日本に約460万社ほどある企業の中で99%にものぼります。私たちが日々コンサルティングの質を上げることにより、中小・中堅企業のリスク管理のサポートができ

る数は無限大です。そういう意味でも、私たちのビジネスはまだまだ伸び続ける可能性が高く、非常にワクワクしています。

現在、奈良、大阪、東京にオフィスを置き、志を同じくする素晴らしいスタッフと共に日々の成長を称え合い楽しく仕事をしております。多様化・複雑化・巨大化するリスクに向き合い、その問題解決に対応でき、真にお客様のお役に立てる会社として、業界のパイオニア的存在になりたいと考えております。将来は、九州地区にも拠点を置きたいですね。



レナート：お話を聞いていると、当社もマーシュ総研さんも、時代の流れにいち早く対応しながらも常にお客様の心に寄り添うことを一番大切にしてきたのだなと感じました。

清岡：ほんとですね。BMWだから乗りたいとお客様が思われるよう、私たちもマーシュ総研のコンサルティングを受けたいとか、ここに任せたら安心だよとご紹介やご相談頂きマグネットのようにお客様が集う魅力的な会社になっていきたいですね。そのためにも、同じように地域を守っていらっしゃる全国の代理店さんや志を同じくする方々と一緒に、中小・中堅企業に向けた保険のイメージを変えていけたらと思っています。

## BMW Mの50周年は サプライズが目白押し

清岡：50周年を記念した、お客様へのサプライズも始まっているんですよね。

レナート：そうなんです。まずは、今年、「Mシリーズ」の中で、初の電気自動車が2モデル誕生しました。一つは、3月に発表されたBMW MとBMW iの革新的なパワーを組み合わせたBMW初のモデル「BMW i4 M50」。そしてもう一つが、当社の誕生日である5月24日に発表された、スポーツ・アクティビティ・ビークル (SAV) のセグメント史上初の完全電動BMW Mモデル「BMW iX M60」。こちらは、年内の日本での販売台数が9台です。

清岡：9台!? 爭奪戦ですね（笑）。

レナート：はい（笑）。抽選で、当選された方への販売となります。どちらも電気で駆けぬけるダイナミックな走りを体感いただけます。素晴らしい加速力をぜひ試乗で味わっていただきたいです。そして、今年の3月から来年の3月生産の間だけ全車両に限定マークが導入されます。これは、70年代にモータースポーツに採用された復刻版のマークなんです。

清岡：往年のモータースポーツファンの方々にとっても、

プレミアですね！

レナート：ほんとにそうなんです。さらに、購入されたお客様に標準として提供していた3年間保証を無償で2年間延長いたします（通常は有料プラン）。また、プレミアムミッドサイズセグメントの高性能特別仕様車となる新型「M4 CSL」の販売も本国で発表されました。限定車の情報など、まだまだ追ってお知らせできることがあると思いますので、BMW Mのホームページをぜひチェックしてみてください。

清岡：この1年、お愉しみが目白押しですね！

レナート：そうですね。電気自動車モデルが発表となつたことで、ここから完全電動化に向けて私たちも加速していくわけですが、BMW Mを愛してくださるお客様がガソリンエンジンで体感されていた感情的な喜びを電気自動車でどう表現していくのか。電気の出力数では見えてこない、そのフィーリングや遊び心の部分で今後は差別化されていくでしょうし、その組み合わせが一番うまい会社が成功すると思うんです。50年という歴史を積み重ねたからこそできるBMW Mの力を電気自動車でも思う存分発揮したいと思います。

清岡：楽しみですね！こだわりを持って経営をされている当社のお客様も「Mシリーズ」がお好きな方って多いと思います。

レナート：実際、中小、中堅企業の社長様にもオーナー様がたくさんいらっしゃいます。それはやはり、ハイパフォーマンスでお仕事されている方とBMWの想いとか考え方方が似ているからなのかなと感じています。そういう方だからこそ、愛車にもハイパフォーマンスを求められるのかなと。そんなみなさまにもずっと選んでいただけるよう、常に世界NO.1を目指していきたいと思います。

清岡：マーシュ総研もさらなる高みを目指します。ともに頑張っていきましょう。本日は、ありがとうございました。

レナート：こちらこそ、ありがとうございました。お願いいいたします。

